

8月に入り、あっという間に10日余りが過ぎてしまいました。厳しい暑さが続いていましたが、昨日の台風15号は 人間の予測を覆すものでしたね。北風を伴いながら これまでになかった進路で 観測史上初めて茨城県に上陸の後 横断。“台風一過”の現象も見られず どんよりとした灰色の雲が 広がっている空と9月下旬のような涼しい気候に驚き、戸惑いさえ感じます。つくづく自然の営みは 人知を遥かに超える神様の御旨によるのだと、どうにもならないもどかしさを痛感させられています。今後も台風の発生が続いています。保育園としても皆で 一層 心を引き締め、祈り、備えて参ります

先月28日に発生した 熊本県での最大震度7の大地震により、被災され、様々な困難の中に在る すべての方々へ 謹んでお見舞いを申し上げます。また 大切な人との突然のお別れに 悲しみの日々を 過ごされているおひとりおひとりの上に 神さまの平安と慰めとお守りを 心からお祈りいたします。熊本の皆さんの希望と復興のため 何か少しでもお力になりたいと話し合っ、つのぶえ保育園でも 休み明け17日(月)より 玄関前に『献金BOX』を設置いたします。ご協力いただければ 幸いです。

さて 地震発生の翌日7月29日には、成田市が平和啓発事業として 2009年より始められた『折鶴平和プロジェクト』に 小泉市長より 今年もお招きをいただきまして、いるか組・こあら組の 子ども達18名と共に参加しました。各中学校より代表で集められた“折鶴平和使節団”の学生の皆さんの 長崎での学びが 実りあるものになりますように、市内で集められた折鶴が 広島と長崎へ 無事 届きますように、皆の願いと共に、例年同様、プログラムの最後に『ひとりのちいさな手』をつのぶえの子ども達が 精一杯！愛らしい声を合わせ、永遠の平和への祈りを込めて、讃美しました。小泉市長をはじめ周りの皆さんが 笑顔と手拍子で応援してくださり、心温まるひと時となりました。子ども達の歌声は会場の方々それぞれのお心に平和への明るい希望となって届いたことと信じます。毎年こうして子ども達を通し、平和への想いを分かち合える機会を与えられ 心から感謝しています。このイベントは、17年前、つのぶえ保育園の設立50周年にあたる2009年、偶然の出会いがきっかけでしたが【人にとっての偶然は 神にとっての必然】の言葉通りの出来事だと感じています。つのぶえ保育園の“50歳の誕生日”という大きな節目となるこの年に その記念事業の一環として 永久的な取り組みを行いたいと願い、職員や保護者会役員の方達と 何度も検討を重ねていたところ、『平和を願い 市民の皆様の折鶴を被爆地の広島と長崎に届けましょう！』と公報に掲載されていた 小さな記事のタイトルが目にとまり、その趣旨に賛同し、すぐに立ち上げたことから 始まりました。保育園の子ども達、卒園生、職員や法人役員、保護者の皆さんなど、つのぶえに関わる皆で折った 鶴を(初めは ごく僅かな数でしたが)市の担当課へ届けた際、今に繋がる出会いを与えられました

まもなく8月15日、81回目の終戦記念日を迎えます。平和を守り続けたいと 心から思います。今朝の全体礼拝で「日本は戦争に負けて 戦争はもうやらない！と決めたけど、世界では続いている」という話を聞いた子ども達は、とても険しい表情で「戦争は絶対にしない！」と宣言していました。戦争は人間による人災です。平和もまた 人間がつくり出す宝であり、人間にしかできないものです。すべての人の心に注がれている神さまの愛に それぞれが気づき、お互いを大切に認め合い 親切にし、自分の周りで小さな平和をたくさんつくり出せるようこれからも子ども達と実践していきましょう。折鶴を折ることの意味を 共に考え合い 心に想いながら、平和を願う心を育み続けたいと思います。そして、81年間 命を懸けて平和を築き 守り続けてきてくれた大勢のすべての人達に 心を馳せ、感謝を献げながら、その貴いバトンを永遠に引き継いでいく強い意志を持ちたいと切に祈りつつ…。

「私たち力のある者は 力のない人たちの弱さを担うべきです。

自分を喜ばせるためではありません。 私たちはひとりひとり隣人を喜ばせ、

その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。(ローマ15:1-2)」(石田 記)